

地方都市近郊農業の現況と課題(1)

— 上田市塩田地区の事例 —

The Agrarian Problem around a Provincial Town (1)

野 原 建 一
Ken'ichi Nohara

(1)

いまわたしの手もとに2冊の本がある。ひとつは『明治の塩田郷村誌』(1966年11月刊)であり、いまひとつは『塩田の宝永差出帳』(1977年8月刊)である。いずれも塩田郷土史研究会の手によって刊行されている。ただし、その内容とするところは、すでに前者については『長野県町村誌』(1936年)に、そして後者は、『大日本近世史料』東京大学史料編纂所(1953年)の中に収録されている。後者の『宝永差出帳』は、刊行する際、「各村に残る控や写し」⁽¹⁾と整合させて若干の修正をこころみている。あらためて発刊する意義はある。郷土史家を中心に地域の歴史を見直す意味は大きい。

ところで『宝永差出帳』をひもどいてみると、1707(宝永3)年に松平氏が仙石氏に代わったときの塩田の農業のようすがおおよそわかる。上田地方で商品生産として養蚕がおこなわれたのは、大体1760(宝暦10)年ごろとされているが、⁽²⁾農村地域では、それ以前から副業としての養蚕が営まれていたようである。

さきの『宝永差出帳』によれば、各村々の土地概況を述べるなかに、必ずといってよいほどつぎの2行がしたためられている。

一、桑・椿、御年貢地之内、百姓勝手ニ少宛植申候

一、かいこ・所不相応ニ付かい不申候、併少宛かい申者も御座候

上述にみるようにすでに18世紀に入るとまもなく養蚕が、副業として塩田地区の農家で営まれていることがわかる。ところで、その塩田地区の旧

村単位の百姓数および農家数をみたものが第1表である。この表によると江戸時代中ごろの塩田地区は、主として東塩田を中心に農業が展開されていたことがうかがえる。ついで中塩田、西塩田の順で農家数が多い。「水呑」百姓の比重は、東塩

第1表 18世紀初めの百姓数と戸数

	村名	男	女	計	本百姓	水呑	計
東 塩 田	町屋(下・中組)	191	153	344	32	41	73
	奈良尾	221	175	396	47	51	98
	平井寺	101	79	180	17	14	31
	鈴子	139	106	245	41	11	52
	石神	154	89	243	35	29	64
	柳沢	130	87	217	33	23	56
	下之郷	340	277	617	63	65	128
中 塩 田	五加	258	206	464	66	22	88
	本郷	191	161	352	48	15	63
	中野	125	96	221	22	24	46
	小嶋	105	87	192	23	16	39
	保屋	171	125	296	39	7	46
	舞田	135	109	244	25	21	46
西 塩 田	八木沢	188	161	349	39	30	69
	十人	50	46	96	11	6	17
	東前山	157	113	270	32	25	57
	西前山	125	111	236	29	9	38
	手塚	277	210	487	63	28	91
	新町	91	72	163	21	8	29
	山田	121	104	225	41	14	55
野倉	213	165	378	22	58	80	
	別所	268	218	486	65	29	94
	計	3,751	2,950	6,701	814	546	1,360

(注) 『塩田の宝永差出帳』より作成

田が約47パーセントと高く、中塩田が34パーセントと低い。西塩田も全体には低い、なかでは野倉村の比重がとくに高いのが目につく。

いずれにせよ、塩田地区では農業以外の商品生産が養蚕を中心に活発におこなわれていた。そして、明治期に入ると製糸業、織物もくわわって塩田地区の農村は活気に満ちてくる。戸数、人口も江戸時代のその2倍以上にふくれあがってくる。もはや副業ではなく専業で養蚕、製糸をおこなうものがでてくるくらいになる。しかし、それも長くはつづかず、明治20(1890)年代になると製糸の中心はやがて諏訪地方に移っていく。⁽³⁾ただ塩田地区がかつては農業を中心に、発展した歴史をもっていたことは念頭に置いておいたほうがよいだろう。農業を発展、持続させた産業の歴史がそこにあるからである。早害に悩まされながらもなお農業をささえた産業があったのである。

小稿では、現在の塩田地区の農業の状況を検討していくわけだが、この地域は古代、中世、近世へと長い歴史を受けついできたところでもあった。この後の検討の主要な手がかりとなる「農林業センサス」は、こうした旧自然村を単位とした集落別の集計をこころみている。したがって、史料が存在する近世からどれだけ塩田地区の農業が変貌したかをみることは可能であろう。

いまかつての郷村は、それぞれの自治会へと組織名称はかわってきている。しかし、それぞれの自治会に冠せられている地区名は、そのほとんどが旧郷村名であらわされている。農業という産業を柱にした塩田地区は、かくて長い郷村的伝統をうけついで今日にいたった農村地帯である。

1970(昭和45)年4月1日、塩田町は上田市に編入された。地方都市の一翼を担うことになった塩田地区ではあるが、総体としてはいざんとして、農業を主体にした伝統的農村地帯といえる。1985年現在、上都市の人口の約15パーセントをこえる人口を塩田地区がしめている。上田市に編入された1970年を「底」に、塩田地区の人口はその後、微増から漸増傾向にはいつてきたのである。つまり、塩田地区の社会経済がこの15年間にすこしずつ変化していることの反映が人口の漸増にもあらわれているように思えるのである。

そうしたなかで、これまでの伝統的、郷村的農

業はどうかわっていったのだろうか、また、どうかわろうとしているのだろうか、などという点を小稿では「農林業センサス」を手がかりにみていきたいのである。なお小稿は、『「塩田地区まちづくり」のための基礎的研究』という共同研究の一環としての位置づけをもっている。⁽⁴⁾つまり「塩田地区まちづくり」共同研究のなかで農業に関する基礎資料を提供することが、わたしに課せられた課題である。その意味で、小稿に掲載する統計は、集落別に集計したものをそのままとくに手を加えずにおくことにした。集落別の統計がそのまま「塩田地区まちづくり」共同研究の基礎資料になる、と考えたからである。したがって、統計、調査にもとづく社会経済構造の総合的分析は、別の機会にあらためておこなうことにしたい。

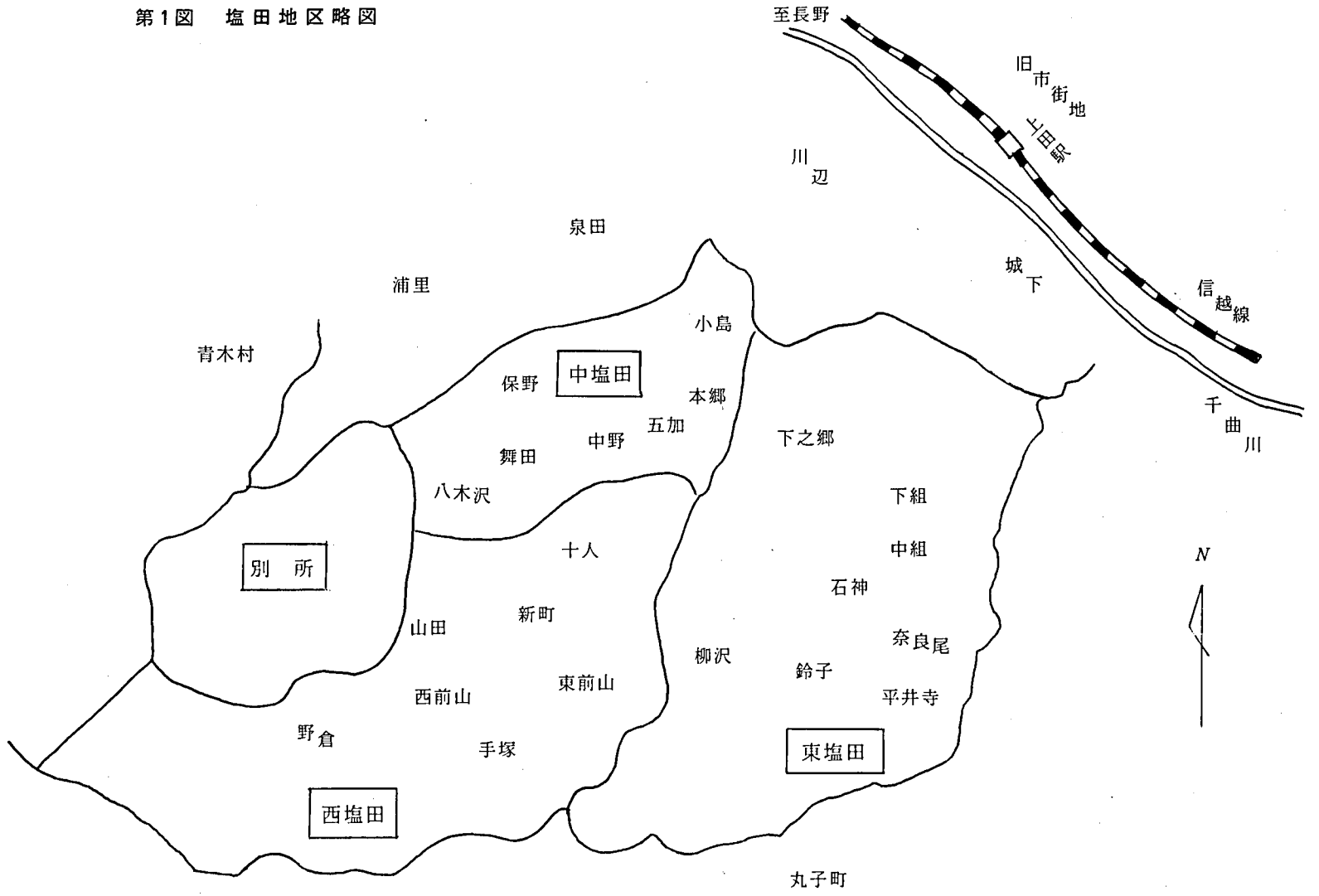
(2)

まず塩田地区の全体像を得るために第1図の略図を用意した。ご覧のように4つの地域にわかれている。南は丸子町と接しているが、その境は独鈷山などの1000メートルをこす山岳が連なっている。また、西は青木村と接しているが、その境も同じような高さの山岳でうずめられている。したがって、塩田地区の南西は山岳にとり囲まれた地形をしめしている。同時に、塩田地区は千曲川をはさんだ上田盆地の一部を構成していることにもなる。いわゆる「塩田平」は、中塩田と東塩田、西塩田の一部からなる平地をさしている。

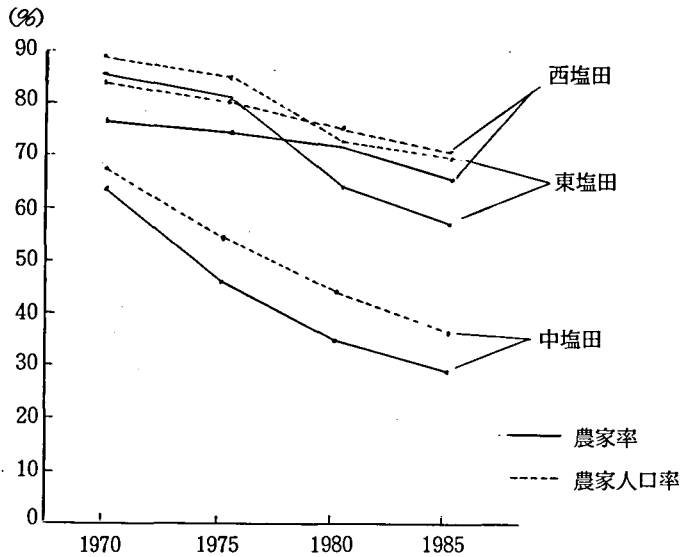
この塩田平では、古代から農業がさかんで、都へ貢納した記録だけでなく、条里制の遺構、とりわけ灌漑の遺構が確認されている。⁽⁵⁾長野県内では比較的温暖とされる塩田地区は、年間降水量のすくないところとしても知られている。近世期に入って、溜池が積極的に郡奉行の管轄下でつくられたのは灌漑用水確保のためであった。それだけに水利権の確保と継承は、村落にとって生命線にも等しいことであり、共同体内部のむすびつきを強めることにもなったと考えられる。いずれにせよ、塩田地区が伝統的郷村形態を歴史的背景として持っていることに注目しておく必要がある。

ところで塩田地区が伝統的な農村地域であるが、近年、とくに上田市との合併(1970年)後、しだ

第1圖 塩田地区略図



第2図 農家率と農家人口率の推移



いに構造的変化をみせている。その変化の一端を第2図でみてみよう。第2図は、ここ15年間の農家率と農家人口率についてみたものである。この図では塩田の3つの地域の推移を比較している。明瞭によみとれることは、中塩田が他の2地域に比べ、格段にいずれの率も減少している点である。1970年から85年にかけて約50パーセントの減少率をしめしていることがわかる。ついで東塩田の離農化が、西塩田に比べすすんでいる。とはいえ、全体でみれば、1985年の西塩田地域は農家率50パーセント、農家人口率60パーセントをしめ、全国比、長野県比でみても大きく上まわっている。⁽⁶⁾ 中塩田地域の離農化現象が他地域に比べて激しいのは、中塩田が塩田平の中心をしめ、商業化、宅地化が比較的すすんでいる点が指摘される。東塩田の一部で工業団地などが造成がすすめられているが、全体では西塩田と同様に農村地域の様相をこの図からはうかがえるのである。しかし、確実に変化のきざしが西・東塩田地域でもおきていることはたしかである。1970年代前半におきたオイル・ショック、そして70年代後半の不況下のなかで維持されてきた農業が、80年代前半にかけての第2次石油危機の影響を間接にうけているかのようである。国家財政の負担軽減策のひとつとして減反がとりあげられるのもこうした時期であっ

た。小規模農業経営を放棄せざるをえない環境が政策の上でおしすすめられたといえる。たとえば、東塩田では、農家率の減少は大きい農家人口率はさほど大きく減少していない。離農が零細・小農を中心にすすんでいるためとも考えられる。

そこでつぎにそれぞれの地域を集落別に、「農林業センサス」を手がかりにして、1970年から85年にかけての農業構造の変化を追ってみようと思う。⁽⁷⁾

(3)

まず第2表と第3表により、農家戸数と農家人口の推移を集落別にみておくことにする。第2表は専業・兼業別の農家数を集計したものである。

ところで中塩田地域は、9地区にわけられ、西塩田は7地区、東塩田が8地区にわけられているのは第1図でみた通りである。ほぼ旧村単位で地区が設定されているため、現在の自治会の区割とは必ずしも一致していない。

中塩田地域は先にものべた通り、比較的平地が多く、商業化、宅地化が他の2地区に比べすすんでいるところである。また近年、工場の進出も目だつようになってきている。そこで、専業別農家数の推移をみると、第2種兼業化が1970年から75年にかけて強まり、その後80年から85年にかけては押

第2表 専業別農家数の推移

(単位 戸、()内は%) (小数点第2位以下4捨5入)

(1) 中塩田地域

① 下本郷

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	6 (9.5)	8 (12.7)	49 (77.8)	63 (100)
1975	3 (4.9)	11 (18.0)	47 (77.1)	61 (100)
1980	10 (16.1)	4 (6.5)	48 (77.4)	62 (100)
1985	7 (12.7)	4 (7.3)	44 (80.0)	55 (100)

⑥ 下小島

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	8 (11.3)	12 (16.9)	51 (71.8)	71 (100)
1975	4 (5.3)	9 (12.0)	62 (82.7)	75 (100)
1980	5 (7.2)	8 (12.6)	56 (81.2)	69 (100)
1985	8 (11.6)	10 (14.5)	51 (73.9)	69 (100)

② 上本郷

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	5 (7.1)	8 (11.4)	57 (81.5)	70 (100)
1975	5 (6.9)	10 (13.9)	57 (79.2)	72 (100)
1980	4 (5.9)	2 (2.9)	62 (91.2)	68 (100)
1985	3 (4.6)	3 (4.6)	59 (90.8)	65 (100)

⑦ 保野

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	10 (6.9)	22 (15.2)	113 (77.9)	145 (100)
1975	12 (8.5)	17 (11.9)	113 (79.6)	142 (100)
1980	13 (9.6)	14 (10.4)	108 (80.0)	135 (100)
1985	12 (9.4)	11 (8.7)	104 (81.9)	127 (100)

③ 五加

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	19 (9.6)	17 (8.6)	162 (81.8)	198 (100)
1975	11 (6.4)	13 (7.6)	148 (86.0)	172 (100)
1980	13 (7.6)	13 (7.5)	146 (84.9)	172 (100)
1985	16 (9.4)	7 (4.1)	148 (86.5)	171 (100)

⑧ 舞田

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	16 (19.5)	13 (15.9)	53 (64.6)	82 (100)
1975	10 (12.7)	15 (19.0)	54 (68.3)	79 (100)
1980	8 (10.4)	10 (13.0)	59 (76.6)	77 (100)
1985	9 (11.7)	7 (9.1)	61 (79.2)	77 (100)

④ 中野

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	13 (15.9)	12 (14.6)	57 (69.5)	82 (100)
1975	13 (16.5)	5 (6.3)	61 (77.2)	79 (100)
1980	8 (10.5)	12 (15.8)	56 (73.7)	76 (100)
1985	18 (24.0)	6 (8.0)	51 (68.0)	75 (100)

⑨ 八木沢

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	8 (6.9)	20 (17.2)	88 (75.9)	116 (100)
1975	10 (8.4)	14 (11.8)	95 (79.8)	119 (100)
1980	14 (11.8)	11 (9.2)	94 (79.0)	119 (100)
1985	14 (11.9)	6 (5.1)	98 (83.1)	118 (100)

⑤ 上小島

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	14 (31.1)	6 (13.3)	25 (55.6)	45 (100)
1975	3 (6.4)	1 (2.1)	43 (91.5)	47 (100)
1980	3 (6.5)	5 (10.9)	38 (82.6)	46 (100)
1985	2 (4.4)	4 (8.9)	39 (86.7)	45 (100)

⑩ 中塩田全地域

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	99 (11.4)	118 (13.5)	655 (75.1)	872 (100)
1975	71 (8.4)	95 (11.2)	680 (80.4)	846 (100)
1980	78 (9.5)	79 (9.6)	667 (80.9)	826 (100)
1985	89 (11.1)	58 (7.2)	655 (81.7)	802 (100)

(2) 西塩田地域

① 十人

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	12 (27.3)	7 (15.9)	25 (56.8)	44 (100)
1975	16 (36.4)	5 (11.3)	23 (52.3)	44 (100)
1980	6 (14.6)	6 (14.6)	29 (70.8)	41 (100)
1985	6 (16.2)	3 (8.1)	28 (75.7)	37 (100)

② 東前山

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	24 (24.2)	14 (14.2)	61 (61.6)	99 (100)
1975	19 (20.2)	15 (16.0)	60 (63.8)	94 (100)
1980	26 (26.5)	13 (13.3)	59 (60.2)	98 (100)
1985	16 (18.0)	12 (13.5)	61 (68.5)	89 (100)

③ 西前山

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	14 (14.9)	26 (27.7)	54 (57.4)	94 (100)
1975	6 (6.6)	28 (30.8)	57 (62.6)	91 (100)
1980	11 (12.6)	22 (25.3)	54 (62.1)	87 (100)
1985	1 (1.2)	17 (20.0)	67 (78.8)	85 (100)

④ 手塚

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	28 (15.6)	29 (16.2)	122 (68.2)	179(100)
1975	11 (6.3)	25 (14.4)	138 (79.3)	174(100)
1980	14 (7.9)	11 (6.2)	152 (85.9)	177(100)
1985	13 (7.3)	9 (5.1)	156 (87.6)	178(100)

⑤ 塩田新町

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	12 (15.6)	7 (9.1)	58 (75.3)	77 (100)
1975	5 (6.7)	3 (4.0)	67 (89.3)	75 (100)
1980	5 (7.0)	8 (11.3)	58 (81.7)	71 (100)
1985	9 (13.8)	0 (0)	56 (86.2)	65 (100)

⑥ 山田

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	8 (11.4)	20 (28.6)	42 (60.0)	70 (100)
1975	7 (10.0)	7 (10.0)	56 (80.0)	70 (100)
1980	7 (10.1)	6 (8.7)	56 (81.2)	69 (100)
1985	6 (9.4)	4 (6.2)	54 (84.4)	64 (100)

⑦ 野倉

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	5 (7.8)	14 (21.9)	45 (70.3)	64 (100)
1975	1 (1.7)	10 (16.7)	49 (81.6)	60 (100)
1980	3 (5.4)	10 (17.8)	43 (76.8)	56 (100)
1985	3 (7.0)	4 (9.3)	36 (83.7)	43 (100)

⑧ 西塩田全地域

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	103 (16.4)	117 (18.7)	407 (64.9)	627(100)
1975	65 (10.7)	93 (15.3)	450 (74.0)	608(100)
1980	72 (12.0)	76 (12.7)	451 (75.3)	599(100)
1985	54 (9.6)	49 (8.7)	458 (81.7)	561(100)

(3) 東塩田地域

① 平井寺

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	7 (13.2)	14 (26.4)	32 (60.4)	53 (100)
1975	9 (17.0)	8 (15.1)	36 (67.9)	53 (100)
1980	2 (4.1)	8 (16.3)	39 (79.6)	49 (100)
1985	1 (2.1)	8 (17.0)	38 (80.9)	47 (100)

② 鈴子

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	10 (14.3)	9 (12.9)	51 (72.8)	70 (100)
1975	8 (10.8)	12 (16.2)	54 (73.0)	74 (100)
1980	7 (10.0)	8 (11.4)	55 (78.6)	70 (100)
1985	4 (6.1)	14 (21.2)	48 (72.7)	66 (100)

③ 石神

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	27 (27.3)	24 (24.2)	48 (48.5)	99 (100)
1975	14 (14.0)	16 (16.0)	70 (70.0)	100 (100)
1980	15 (16.0)	19 (20.2)	60 (63.8)	94 (100)
1985	12 (13.6)	13 (14.8)	63 (71.6)	88 (100)

⑧ 下組

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	12 (11.5)	29 (27.9)	63 (60.6)	104 (100)
1975	8 (7.8)	16 (15.5)	79 (76.7)	103 (100)
1980	13 (12.7)	23 (22.6)	66 (64.7)	102 (100)
1985	11 (11.0)	13 (13.0)	76 (76.0)	100 (100)

④ 柳沢

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	21 (22.8)	18 (19.6)	53 (57.6)	92 (100)
1975	10 (11.0)	9 (9.9)	72 (79.1)	91 (100)
1980	10 (11.9)	14 (16.7)	60 (71.4)	84 (100)
1985	15 (19.2)	12 (15.4)	51 (65.4)	78 (100)

⑨ 東塩田全地域

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	191 (21.2)	186 (20.7)	522 (58.1)	899 (100)
1975	124 (14.0)	127 (14.4)	633 (71.6)	884 (100)
1980	134 (15.7)	161 (18.9)	557 (65.4)	852 (100)
1985	127 (15.6)	129 (15.8)	558 (68.6)	814 (100)

⑤ 下之郷

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	53 (23.3)	46 (20.3)	128 (56.4)	227 (100)
1975	30 (13.8)	22 (10.1)	166 (76.1)	218 (100)
1980	34 (16.2)	50 (23.8)	126 (60.0)	210 (100)
1985	32 (15.8)	31 (15.4)	139 (68.8)	202 (100)

⑥ 奈良尾

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	31 (27.2)	23 (20.2)	60 (52.6)	114 (100)
1975	27 (24.5)	23 (20.9)	60 (54.6)	110 (100)
1980	32 (29.6)	19 (17.6)	57 (52.8)	108 (100)
1985	28 (27.5)	20 (19.6)	54 (52.9)	102 (100)

⑦ 中組

年	専業	第1種兼業	第2種兼業	計
1970	30 (21.4)	23 (16.4)	87 (62.2)	140 (100)
1975	18 (13.3)	21 (15.6)	96 (71.1)	135 (100)
1980	21 (15.6)	20 (14.8)	94 (69.6)	135 (100)
1985	24 (18.3)	18 (13.8)	89 (67.9)	131 (100)

第3表 塩田地区農家人口就業構造の推移

資料は「各年度農林業センサス」による

(1) 中塩田地域

① 下本郷

単位 人, ()内は%

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	60 (21.8)	52 (18.9)	113 (41.1)	50 (18.2)	275 (100)
1975 (50)	51 (20.2)	47 (18.6)	95 (37.5)	60 (23.7)	253 (100)
1980 (55)	41 (17.4)	43 (18.3)	96 (40.9)	55 (23.4)	235 (100)
1985 (60)	36 (17.1)	38 (18.1)	76 (36.2)	60 (28.6)	210 (100)

(注) 年の () 内は 昭和年号を表わす。以下同じ。

② 上本郷

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	58 (19.0)	76 (24.8)	122 (39.9)	50 (16.3)	306 (100)
1975 (50)	63 (20.5)	67 (21.7)	118 (38.3)	60 (19.5)	308 (100)
1980 (55)	49 (17.2)	56 (19.6)	121 (42.5)	59 (20.7)	285 (100)
1985 (60)	45 (16.7)	43 (15.9)	116 (43.0)	66 (24.4)	270 (100)

③ 五加

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	190 (22.1)	173 (20.1)	322 (37.4)	176 (20.4)	861 (100)
1975 (50)	166 (21.7)	144 (18.8)	290 (37.8)	166 (21.7)	766 (100)
1980 (55)	157 (20.6)	134 (17.7)	300 (39.4)	170 (22.3)	761 (100)
1985 (60)	152 (20.4)	117 (15.7)	299 (40.1)	178 (23.8)	746 (100)

④ 中野

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	62 (18.1)	81 (23.7)	130 (38.0)	69 (20.2)	342 (100)
1975 (50)	53 (17.3)	65 (21.2)	123 (40.0)	66 (21.5)	307 (100)
1980 (55)	47 (17.1)	39 (14.2)	117 (42.5)	72 (26.2)	275 (100)
1985 (60)	41 (15.4)	42 (15.8)	101 (38.0)	82 (30.8)	266 (100)

⑤ 上小島

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	63 (29.7)	30 (14.2)	84 (39.6)	35 (16.5)	212 (100)
1975 (50)	43 (20.6)	48 (22.9)	84 (40.2)	34 (16.3)	209 (100)
1980 (55)	29 (15.4)	44 (23.4)	85 (45.2)	30 (16.0)	188 (100)
1985 (60)	22 (12.4)	36 (20.2)	74 (41.6)	46 (25.8)	178 (100)

⑥ 下小島

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	70 (22.8)	67 (21.8)	116 (37.8)	54 (17.6)	307 (100)
1975 (50)	69 (21.6)	64 (20.0)	118 (36.8)	69 (21.6)	320 (100)
1980 (55)	56 (19.0)	58 (19.7)	112 (38.1)	68 (23.2)	294 (100)
1985 (60)	53 (19.1)	46 (16.5)	107 (38.5)	72 (25.9)	278 (100)

⑦ 保野

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	127 (20.2)	136 (21.6)	261 (41.6)	104 (16.6)	628 (100)
1975 (50)	133 (21.5)	116 (18.5)	247 (39.6)	127 (20.4)	623 (100)
1980 (55)	119 (20.8)	87 (15.2)	239 (41.7)	128 (22.3)	573 (100)
1985 (60)	109 (20.1)	82 (15.2)	214 (39.6)	136 (25.1)	541 (100)

⑧ 舞田

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	73 (20.0)	77 (21.2)	142 (39.0)	72 (19.8)	364 (100)
1975 (50)	66 (19.9)	65 (19.6)	126 (38.1)	74 (22.4)	331 (100)
1980 (55)	52 (16.6)	55 (17.6)	128 (41.1)	77 (24.7)	312 (100)
1985 (60)	44 (14.8)	45 (15.1)	127 (42.6)	82 (27.5)	298 (100)

⑨ 八木沢

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	101 (19.0)	134 (25.3)	198 (37.4)	97 (18.3)	530 (100)
1975 (50)	96 (19.6)	94 (19.2)	182 (37.2)	118 (24.0)	490 (100)
1980 (55)	93 (19.3)	80 (16.6)	193 (39.9)	117 (24.2)	483 (100)
1985 (60)	83 (17.5)	70 (14.7)	187 (39.4)	135 (28.4)	475 (100)

⑩ 中塩田全地域

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	804 (21.0)	826 (21.5)	1,488 (38.8)	717 (18.7)	3,835 (100)
1975 (50)	740 (20.5)	720 (19.9)	1,383 (38.2)	774 (21.4)	3,617 (100)
1980 (55)	643 (18.9)	596 (17.5)	1,391 (40.8)	776 (22.8)	3,406 (100)
1985 (60)	585 (17.9)	519 (15.9)	1,301 (39.9)	857 (26.3)	3,262 (100)

(2) 西塩田地域

① 十人

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	30 (16.2)	54 (29.2)	77 (41.6)	24 (13.0)	185 (100)
1975 (50)	33 (18.8)	41 (23.3)	71 (40.3)	31 (17.6)	176 (100)
1980 (55)	30 (18.3)	30 (18.3)	66 (40.2)	38 (23.2)	164 (100)
1985 (60)	24 (16.6)	21 (14.4)	53 (36.6)	47 (32.4)	145 (100)

② 東前山

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	73 (17.9)	107 (26.3)	164 (40.3)	63 (15.5)	407 (100)
1975 (50)	83 (20.8)	90 (22.5)	159 (39.7)	68 (17.0)	400 (100)
1980 (55)	77 (19.9)	62 (16.1)	160 (41.5)	87 (22.5)	386 (100)
1985 (60)	73 (20.2)	53 (14.7)	136 (37.7)	99 (27.4)	361 (100)

③ 西前山

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	81 (19.7)	89 (21.7)	156 (38.1)	84 (20.5)	410 (100)
1975 (50)	71 (18.2)	86 (21.8)	154 (39.2)	82 (20.8)	393 (100)
1980 (55)	67 (18.2)	72 (19.6)	148 (40.2)	81 (22.0)	368 (100)
1985 (60)	70 (19.1)	62 (16.9)	150 (40.9)	85 (23.1)	367 (100)

④ 手塚

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	169 (20.9)	185 (22.9)	301 (37.3)	153 (18.9)	808 (100)
1975 (50)	135 (17.9)	172 (22.8)	295 (39.1)	152 (20.2)	754 (100)
1980 (55)	139 (19.0)	139 (19.0)	295 (40.3)	159 (21.7)	732 (100)
1985 (60)	158 (21.2)	108 (14.5)	293 (39.4)	185 (24.9)	744 (100)

⑤ 塩田新町

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	70 (20.2)	80 (23.1)	130 (37.6)	66 (19.1)	346 (100)
1975 (50)	59 (18.4)	69 (21.6)	126 (39.4)	66 (20.6)	320 (100)
1980 (55)	51 (16.6)	66 (21.7)	121 (39.5)	68 (22.2)	306 (100)
1985 (60)	31 (12.1)	49 (19.1)	110 (43.0)	66 (25.8)	256 (100)

⑥ 山田

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	72 (23.1)	57 (18.3)	116 (37.2)	67 (21.4)	312 (100)
1975 (50)	49 (16.4)	64 (21.5)	117 (39.3)	68 (22.8)	298 (100)
1980 (55)	42 (15.5)	43 (15.8)	112 (41.4)	74 (27.3)	271 (100)
1985 (60)	37 (14.7)	37 (14.7)	97 (38.7)	80 (31.9)	251 (100)

⑦ 野倉

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	71 (23.4)	66 (21.8)	112 (37.0)	54 (17.8)	303 (100)
1975 (50)	40 (16.2)	53 (21.5)	105 (42.5)	49 (19.8)	247 (100)
1980 (55)	32 (14.0)	51 (22.4)	90 (39.5)	55 (24.1)	228 (100)
1985 (60)	20 (11.8)	34 (20.0)	64 (37.6)	52 (30.6)	170 (100)

⑧ 西塩田全地域

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	566 (20.5)	628 (22.7)	1,056 (38.3)	511 (18.5)	2,761 (100)
1975 (50)	470 (18.2)	575 (22.2)	1,027 (39.7)	516 (19.9)	2,588 (100)
1980 (55)	438 (17.8)	463 (18.9)	992 (40.4)	562 (22.9)	2,455 (100)
1985 (60)	413 (18.0)	364 (15.9)	903 (39.3)	614 (26.8)	2,294 (100)

(3) 東塩田地域

① 平井寺

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	37 (16.0)	67 (29.2)	81 (35.2)	45 (19.6)	230 (100)
1975 (50)	38 (16.7)	58 (25.6)	85 (37.4)	46 (20.3)	227 (100)
1980 (55)	36 (17.5)	40 (19.4)	82 (39.8)	48 (23.3)	206 (100)
1985 (60)	52 (23.7)	26 (11.9)	87 (39.7)	54 (24.7)	219 (100)

② 鈴子

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	60 (18.3)	78 (23.7)	130 (39.5)	61 (18.5)	329 (100)
1975 (50)	65 (19.7)	67 (20.3)	126 (38.2)	72 (21.8)	330 (100)
1980 (55)	59 (18.8)	49 (15.6)	127 (40.4)	79 (25.2)	314 (100)
1985 (60)	59 (19.4)	44 (14.5)	116 (38.1)	85 (28.0)	304 (100)

③ 石神

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	85 (19.2)	103 (23.2)	172 (38.7)	84 (18.9)	444 (100)
1975 (50)	86 (20.1)	80 (18.6)	173 (40.3)	90 (21.0)	429 (100)
1980 (55)	77 (17.5)	70 (17.5)	157 (39.4)	95 (23.8)	399 (100)
1985 (60)	77 (20.0)	55 (14.2)	151 (39.1)	103 (26.7)	386 (100)

④ 柳沢

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	83 (20.5)	86 (21.2)	165 (40.6)	72 (17.7)	406 (100)
1975 (50)	60 (16.4)	80 (21.8)	149 (40.7)	77 (21.1)	366 (100)
1980 (55)	57 (17.2)	60 (18.0)	137 (41.3)	78 (23.5)	332 (100)
1985 (60)	52 (16.9)	54 (17.5)	115 (37.3)	87 (28.3)	308 (100)

⑤ 下之郷

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	218 (21.2)	237 (23.0)	393 (38.0)	184 (17.8)	1,032 (100)
1975 (50)	157 (16.5)	228 (24.0)	360 (37.9)	206 (21.6)	951 (100)
1980 (55)	132 (15.5)	159 (18.7)	340 (39.9)	221 (25.9)	852 (100)
1985 (60)	129 (15.8)	139 (17.1)	295 (36.2)	252 (30.9)	815 (100)

⑥ 奈良尾

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	91 (18.1)	111 (22.0)	197 (39.1)	105 (20.8)	504 (100)
1975 (50)	76 (16.7)	90 (19.8)	177 (38.9)	112 (24.6)	455 (100)
1980 (55)	78 (17.8)	76 (17.3)	158 (36.0)	127 (28.9)	439 (100)
1985 (60)	82 (19.4)	55 (13.0)	154 (36.4)	132 (31.2)	423 (100)

⑦ 中組

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	108 (17.1)	160 (25.4)	234 (37.1)	129 (20.4)	631 (100)
1975 (50)	112 (18.8)	113 (19.1)	223 (37.5)	146 (24.6)	594 (100)
1980 (55)	101 (18.2)	88 (15.8)	223 (40.1)	144 (25.9)	556 (100)
1985 (60)	112 (20.2)	67 (12.1)	222 (40.0)	154 (27.7)	555 (100)

⑧ 下組

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	96 (19.6)	119 (24.4)	189 (38.7)	85 (17.3)	489 (100)
1975 (50)	94 (20.4)	101 (21.9)	173 (37.5)	93 (20.2)	461 (100)
1980 (55)	89 (20.8)	72 (16.8)	172 (40.3)	94 (22.1)	427 (100)
1985 (60)	95 (21.0)	82 (18.1)	172 (38.1)	103 (22.8)	452 (100)

⑨ 東塩田全地域

年 \ 年令	0 ~ 14	15 ~ 29	30 ~ 59	60 以上	計
1970 (45)	778 (19.2)	961 (23.7)	1,543 (38.2)	765 (18.9)	4,047 (100)
1975 (50)	688 (18.1)	807 (21.2)	1,466 (38.5)	842 (22.2)	3,803 (100)
1980 (55)	629 (17.8)	614 (17.4)	1,396 (39.6)	886 (25.2)	3,525 (100)
1985 (60)	658 (19.0)	522 (15.1)	1,312 (37.9)	970 (28.0)	3,462 (100)

し上げられた高い水準で安定している。つまり2兼化への進行が80年代に入って安定しているのである。それどころか、第2表の中塩田地域の上本郷、中野、下小島では、逆に2兼化が80年から85年にかけて減少しているところもある。

一方、その動きとは反対に専業化の傾向が、80年から85年にかけてみられる。たとえば、同じ中塩田地域の五加、中野、下小島は専業が漸増し、舞田、八木沢においてもわずかながら増加をみせている。また中塩田全域でみても70年から75年にかけて急減した専業化は、その後もちなおし増勢をたどっていることが第2表(1)の⑩でわかる。

この理由を考える手がかりが第3表にある。この農家人口の年令別にみた割合では、どの地区も60歳以上の高齢者層が、漸増していることに気づく。これは、後で検討することになるが、第2種兼業農家の多くは「恒常的勤務」の形態である。当然ながら、定年による退職が60歳前後ででてくることになる。退職後年金や恩給の支給を受けながら、農業に専念するという型がここに生まれてくるのである。とくに、あとつぎになる人がすくない現状では、こうした「年金型専業農家」が、地方都市近郊農業で今後、増加することが考えられる。大都市近郊では、土地を売る可能性がひろがっているが、地方都市近郊では、大都市近郊ほどに土地市場性は高くないため、耕作規模が適性

であれば、退職後そのまま営農が維持されるケースがでてくるものと思われる。

1985年の全国平均で60歳以上のしめる割合は約24パーセント。それと較べると、中・西・東塩田とも30パーセントに近づく勢いであり、今後農村部での高齢者問題が重要な課題となってくる。中塩田では、中野、西塩田では、十人、山田、野倉、東塩田では、下之郷、奈良尾が30パーセントをこえている。とりわけ中野は、専業化が反転急増していることと関係がありそうである。

しかし、全体的には中塩田に較べ、西・東塩田地域では15~29歳という若年労働者層の急減、流出ぶりが目につく。西・東塩田が中塩田より山間地が多く、身近に適当な雇用機会を確保できない、という条件が影響しているのかもしれない。

もう一度第2表の専業別農家数をみてみよう。西塩田地域では2兼の漸増がつづいている。とくに西前山が2兼の急増と専業の急減が目立つ。また1兼の急減ぶりも目につく。この1兼の減少をどう評価するかは、つぎの第4表の経営耕地の規模別農家数の推移との関係を見る必要がある。また十人では、75~80年にかけて専業の減少、2兼の増加がみられるが、80~85年は変化がみられない。手塚も80年にかけてみられた変化が、85年にかけては鈍化している。山田は、70~75年に2兼の増加があるが、あとは安定している。塩田新町は、西塩田の

なかでは商業化、宅地化がわずかではあるがすすんでいるところである。ここでは中塩田の五加や中野にみられたように80～85年にかけて、専業の増加、2兼の減少がみうけられる。いわば地方都市近郊型とでもいえる動きが西塩田の地域でも検出されたことになる。

すなわち、全般的傾向としては、1980年代にかけて第2種兼業化が、飽和状態をしめすかのように微増にとどまった。一方、「恒常的勤務」から解放され、老後を営農ですごそうという「年金型専業農家」が漸増する。いいかえれば、「恒常的勤務」ができる仕事場＝職業を身近かに確保できる条件が地方都市には存在する、ということになる。

小規模農業が存続する条件のひとつに「恒常的勤務」を可能にする労働力市場が、周辺に存在していることがあげられよう。その意味で「出稼ぎ」は、小規模農業存続条件の「非常手段」が「恒常化」したものと考えられる。小規模農業の家計を補完する、あるいはささえる職業をそなえる地方都市は、「地域開発」がすすむなかで増加している。上田市周辺は、そうした地方都市近郊型農業を形成しているといえそうである。

他方東塩田地域では、集落によって異なり2兼の増加、1兼の減少、という変化は、石神、下之郷、下組において70～75年と80～85年にわたってみられる。逆に75～80年にかけては、2兼の減少、専業の増加が確認される。平井寺、鈴子では、70～85年にかけては専業の減少がつづくが、2兼は70～80年が増加し、80～85年は減少している点が注目される。また柳沢、中組では、70～75年は専業が減少し、2兼が増加しているが75～85年にかけては、専業が増加し、2兼が減少するという傾向をみせている。奈良尾は工芸作物などがさかんなところであるが、全体に大きな変化はないものの、80～85年では専業、2兼が減少し、1兼が増加という他地区とは異なった変化をみせている。このような変化は、のちの第5表農作物収穫面積の推移と関連して考えてみる必要があろう。

第2表との関連で第4表の経営耕地規模別農家数を検討してみよう。いわゆる農民層分解という階層分化がみられるかがここでの焦点である。中塩田地域では0.5～1.0ヘクタール層の減少ぶりが目につく。規模的には小農といえるが、塩田地区では中規模＝中位的存在である。この「中産的」ともいえる階層が分化し、0.5ヘクタール未満層へ移り零細・小農層を形成する一方、わずかではあるが2ヘクタール以上にも移っているようすがうかがえるのである。したがって、中塩田全体の傾向は零細・小農化にゆるやかに傾斜している状態であるといえそうである。ただ両極分解とはこの推移からはよみとることはむずかしい。

年代順にいますこし概観してみよう。中塩田では、0.3未満層が増加するのは、1970年から75年にかけてである。それに対し、西塩田、東塩田では1970年から80年にかけて0.3未満層が増加している。そして、80年から85年にかけては、その増勢がとまっている。

一方、塩田地区の中位的存在である0.5～1.0、および1.0～2.0ヘクタールという規模の農家数は、1970年以来、一貫して減少傾向をたどっている。「大規模」ともいえる2.0ヘクタール以上の農家数は、若干ふえている。しかし、そのふえ方は、中規模層の減少ぶりにくらべれば、わずかである。したがって、両極分解とは読みとれないのである。むしろそれは「下方分化」ともいえる現象である。

そこでこの「下方分化」をどう評価すべきか、という問題がのこる。一般的には「両極分解」が看取られ、一方で土地の集積、他方での零細・小規模層の脱落、すなわち賃労働者化という現象がみられる。しかし、塩田地区では、経営耕地の大規模化があまり見られない。むしろ、高令化にあわせた「適性規模」の耕地面積へ、という傾向がつつよくよみとれるのである。

したがって、この「下方分化」を農家の「崩落現象」とかさねあわせるとき、新しい局面での地方の農業危機を示唆しているように思われる。

第4表 経営耕地規模別農家数の推移

(単位戸) 「例外規程」を除外, ()内は%

(1) 中塩田地域

① 下本郷

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	16 (25.4)	20 (31.7)	24 (38.1)	3 (4.8)		63 (100)
1975	18 (29.5)	16 (26.2)	25 (40.0)	2 (3.3)		61 (100)
1980	26 (42.0)	10 (16.1)	24 (38.7)	2 (3.2)		62 (100)
1985	22 (40.0)	13 (23.7)	17 (30.9)	3 (5.4)		55 (100)

② 上本郷

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	20 (28.6)	17 (24.3)	30 (42.8)	3 (4.3)		70 (100)
1975	26 (36.1)	17 (23.6)	24 (33.3)	5 (7.0)		72 (100)
1980	24 (35.3)	13 (19.1)	26 (38.2)	5 (7.4)		68 (100)
1985	25 (38.5)	16 (24.6)	21 (32.3)	3 (4.6)		65 (100)

③ 五加

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	65 (32.8)	58 (29.3)	65 (32.8)	10 (5.1)		198 (100)
1975	68 (39.8)	44 (25.7)	49 (28.7)	10 (5.8)		171 (100)
1980	68 (39.5)	46 (26.8)	47 (27.3)	7 (4.1)	4 (2.3)	172 (100)
1985	65 (38.0)	51 (29.8)	49 (28.6)	3 (1.8)	3 (1.8)	171 (100)

④ 中野

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	13 (15.9)	23 (28.0)	36 (43.9)	10 (12.2)		82 (100)
1975	19 (24.1)	23 (29.1)	32 (40.5)	5 (6.3)		79 (100)
1980	22 (29.0)	19 (25.0)	28 (36.8)	7 (9.2)		76 (100)
1985	22 (29.3)	24 (32.0)	23 (30.7)	5 (6.7)	1 (1.3)	75 (100)

⑤ 上小島

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	9 (20.0)	8 (17.8)	18 (40.0)	10 (22.2)		45 (100)
1975	12 (25.5)	5 (10.7)	21 (44.7)	9 (19.1)		47 (100)
1980	13 (28.3)	6 (13.0)	18 (39.1)	9 (19.6)		46 (100)
1985	10 (22.2)	9 (20.0)	17 (37.8)	7 (15.6)	2 (4.4)	45 (100)

⑥ 下小島

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	10 (14.1)	14 (19.7)	35 (49.3)	12 (16.9)		71 (100)
1975	15 (20.0)	13 (17.3)	35 (46.7)	12 (16.0)		75 (100)
1980	13 (18.8)	15 (21.7)	31 (44.9)	9 (13.1)	1 (1.5)	69 (100)
1985	12 (17.4)	16 (23.2)	29 (42.0)	10 (14.5)	2 (2.9)	69 (100)

⑦ 保野

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	25 (17.2)	40 (27.6)	65 (44.8)	15 (10.4)		145 (100)
1975	39 (27.5)	36 (25.4)	55 (38.7)	12 (8.4)		142 (100)
1980	33 (24.4)	43 (31.9)	46 (34.1)	13 (9.6)		135 (100)
1985	37 (29.1)	40 (31.5)	38 (29.9)	11 (8.7)	1 (0.8)	127 (100)

⑧ 舞田

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	16 (19.5)	17 (20.7)	40 (48.8)	9 (11.0)		82 (100)
1975	20 (25.3)	19 (24.0)	27 (34.2)	13 (16.5)		79 (100)
1980	18 (23.4)	21 (27.3)	28 (36.3)	10 (13.0)		77 (100)
1985	23 (29.9)	23 (29.9)	20 (26.0)	10 (12.9)	1 (1.3)	77 (100)

⑨ 八木沢

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	24 (20.7)	24 (20.7)	52 (44.8)	16 (13.8)		116 (100)
1975	31 (26.1)	33 (27.7)	42 (35.3)	13 (10.9)		119 (100)
1980	35 (29.4)	33 (27.7)	37 (31.1)	12 (10.1)	2 (1.7)	119 (100)
1985	35 (29.7)	32 (27.2)	40 (33.9)	9 (7.6)	2 (1.6)	118 (100)

⑩ 中塩田全地域

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	198 (22.7)	221 (25.3)	365 (41.9)	88 (10.1)		872 (100)
1975	248 (29.3)	206 (24.4)	310 (36.7)	81 (9.6)		845 (100)
1980	252 (30.6)	206 (25.0)	285 (34.6)	74 (9.0)	7 (0.8)	824 (100)
1985	251 (31.3)	224 (27.9)	254 (31.7)	61 (7.6)	12 (1.5)	802 (100)

(2) 西塩田地域

① 十人

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	11 (25.0)	9 (20.5)	20 (45.4)	4 (9.1)		44 (100)
1975	11 (25.0)	12 (27.3)	19 (43.2)	2 (4.5)		44 (100)
1980	13 (31.7)	9 (21.9)	17 (41.5)	2 (4.9)		41 (100)
1985	8 (21.6)	9 (24.3)	20 (54.1)			37 (100)

② 東前山

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	23 (23.2)	27 (27.3)	37 (37.4)	12 (12.1)		99 (100)
1975	27 (29.0)	20 (21.5)	32 (34.4)	12 (12.9)	2 (2.2)	93 (100)
1980	37 (38.1)	23 (23.7)	30 (30.9)	7 (7.3)		97 (100)
1985	33 (37.9)	20 (23.0)	26 (29.9)	8 (9.2)		87 (100)

③ 西前山

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	12 (12.9)	15 (16.1)	45 (48.4)	21 (22.6)		93 (100)
1975	14 (15.6)	17 (18.9)	35 (38.9)	24 (26.6)		90 (100)
1980	17 (19.8)	17 (19.8)	36 (41.9)	15 (17.4)	1 (1.1)	86 (100)
1985	20 (23.5)	26 (30.6)	24 (28.2)	13 (15.3)	2 (2.4)	85 (100)

④ 手塚

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	27 (15.1)	40 (22.3)	92 (51.4)	20 (11.2)		179 (100)
1975	36 (20.7)	47 (27.0)	78 (44.8)	13 (7.5)		174 (100)
1980	46 (26.0)	56 (31.6)	65 (36.7)	10 (5.7)		177 (100)
1985	49 (27.5)	53 (29.8)	62 (34.8)	13 (7.3)	1 (0.6)	178 (100)

⑤ 塩田新町

年 \ 規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	28 (36.3)	20 (26.0)	27 (35.1)	2 (2.6)		77 (100)
1975	31 (41.3)	14 (18.7)	27 (36.0)	3 (4.0)		75 (100)
1980	32 (45.1)	14 (19.7)	22 (31.0)	2 (2.8)	1 (1.4)	71 (100)
1985	28 (43.1)	16 (24.6)	18 (27.7)	3 (4.6)		65 (100)

⑥ 山田

年 \ 規模	0.3 未 満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	7 (10.0)	11 (15.7)	33 (47.1)	19 (27.2)		70 (100)
1975	11 (15.7)	13 (18.6)	29 (41.4)	17 (24.3)		70 (100)
1980	14 (20.3)	14 (20.3)	33 (47.8)	8 (11.6)		69 (100)
1985	15 (23.4)	17 (26.6)	29 (45.3)	3 (4.7)		64 (100)

⑦ 野倉

年 \ 規模	0.3 未 満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	7 (10.9)	9 (14.1)	40 (62.5)	8 (12.5)		64 (100)
1975	10 (16.7)	12 (20.0)	29 (48.3)	9 (15.0)		60 (100)
1980	18 (32.2)	12 (21.4)	22 (39.3)	4 (7.1)		56 (100)
1985	13 (30.2)	15 (34.9)	12 (27.9)	3 (7.0)		43 (100)

⑧ 西塩田全地域

年 \ 規模	0.3 未 満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	115 (18.4)	131 (20.9)	294 (47.0)	86 (13.7)		626 (100)
1975	140 (23.1)	135 (22.3)	249 (41.1)	80 (13.2)	2 (0.3)	606 (100)
1980	177 (29.5)	145 (24.3)	225 (37.7)	48 (8.0)	2 (0.4)	597 (100)
1985	166 (29.7)	155 (27.7)	191 (34.2)	44 (7.9)	3 (0.5)	559 (100)

(3) 東塩田地域

① 平井寺

年 \ 規模	0.3 未 満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	6 (11.3)	10 (18.9)	27 (50.9)	10 (18.9)		53 (100)
1975	13 (24.5)	11 (20.7)	18 (34.0)	11 (20.8)		53 (100)
1980	20 (40.8)	13 (26.5)	12 (24.5)	4 (8.2)		49 (100)
1985	20 (42.6)	10 (21.3)	12 (25.5)	5 (10.6)		47 (100)

② 鈴子

年 \ 規模	0.3 未 満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	19 (27.1)	9 (12.9)	32 (45.7)	10 (14.3)		70 (100)
1975	22 (29.7)	12 (16.2)	33 (44.6)	7 (9.5)		74 (100)
1980	20 (28.6)	11 (15.7)	32 (45.7)	7 (10.0)		70 (100)
1985	19 (28.8)	17 (25.8)	20 (30.3)	10 (15.1)		66 (100)

③ 石神

年 \ 規模	0.3 未滿	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	17 (17.2)	12 (12.1)	43 (43.4)	27 (27.3)		99 (100)
1975	19 (19.0)	17 (17.0)	42 (42.0)	22 (22.0)		100 (100)
1980	18 (19.2)	25 (26.6)	36 (38.3)	15 (15.9)		94 (100)
1985	20 (22.7)	25 (28.4)	28 (31.8)	15 (17.1)		88 (100)

④ 柳沢

年 \ 規模	0.3 未滿	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	9 (9.8)	22 (23.9)	45 (48.9)	16 (17.4)		92 (100)
1975	21 (23.1)	19 (20.9)	38 (41.7)	12 (13.2)	1 (1.1)	91 (100)
1980	24 (28.6)	16 (19.0)	31 (36.9)	12 (14.3)	1 (1.2)	84 (100)
1985	19 (24.4)	27 (34.6)	21 (26.9)	7 (9.0)	4 (5.1)	78 (100)

⑤ 下之郷

年 \ 規模	0.3 未滿	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	33 (14.6)	43 (18.9)	101 (44.5)	50 (22.0)		227 (100)
1975	40 (18.3)	41 (18.8)	84 (38.5)	52 (23.9)	1 (0.5)	218 (100)
1980	39 (18.6)	44 (21.0)	74 (35.2)	48 (22.8)	5 (2.4)	210 (100)
1985	40 (19.8)	44 (21.8)	73 (36.1)	41 (20.3)	4 (2.0)	202 (100)

⑥ 奈良尾

年 \ 規模	0.3 未滿	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	19 (16.7)	12 (10.5)	50 (43.9)	31 (27.2)	2 (1.7)	114 (100)
1975	17 (15.5)	16 (14.6)	48 (43.6)	28 (25.4)	1 (0.9)	110 (100)
1980	30 (28.0)	9 (8.4)	37 (34.6)	30 (28.0)	1 (1.0)	107 (100)
1985	31 (30.4)	12 (11.8)	36 (35.3)	21 (20.6)	2 (1.9)	102 (100)

⑦ 中組

年 \ 規模	0.3 未滿	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970	24 (17.2)	28 (20.0)	65 (46.4)	23 (16.4)		140 (100)
1975	29 (21.5)	27 (20.0)	52 (38.5)	25 (18.6)	2 (1.4)	135 (100)
1980	39 (29.1)	27 (20.1)	43 (32.1)	24 (17.9)	1 (0.8)	134 (100)
1985	42 (32.1)	24 (18.3)	46 (35.1)	17 (13.0)	2 (1.5)	131 (100)

⑧ 下組

年	規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970		10 (9.6)	19 (18.3)	44 (42.3)	31 (29.8)		104
1975		12 (11.6)	23 (22.3)	44 (42.7)	22 (21.4)	2 (2.0)	103
1980		18 (17.6)	27 (26.5)	35 (34.3)	20 (19.6)	2 (2.0)	102
1985		23 (23.0)	22 (22.0)	34 (34.0)	19 (19.0)	2 (2.0)	100

⑨ 東塩田全地域

年	規模	0.3 未満	0.3 ~ 0.5	0.5 ~ 1.0	1.0 ~ 2.0	2.0 以上	計
1970		137 (15.2)	155 (17.3)	407 (45.3)	198 (22.0)	2 (0.2)	899
1975		173 (19.6)	166 (18.8)	359 (40.6)	179 (20.2)	7 (0.8)	884
1980		208 (24.5)	172 (20.2)	300 (35.3)	160 (18.8)	10 (1.2)	850
1985		214 (26.3)	181 (22.2)	270 (33.2)	135 (16.6)	14 (1.7)	814

集落別にみても下本郷では、0.3未満の零細層が70~80年にかけて増加し、80~85年では減少している。これは、農家数が80~85年にかけて約11パーセント強減少したことにもよる。保野も80~85年にかけて農家数が約6パーセント減少したが、0.3未満は増加している。商業・宅地化のすすんでいる五加では、全体に耕地規模が縮小し、0.5未満の零細小農層が約70パーセントをしめているのが特色である。75~85年の農家数はほとんど変わっていない。この点は、上小島、舞田、八木沢にも共通している。とりわけ八木沢は、各規模とも75~85年にわたって変化がなく安定している。八木沢は別所に隣接し、比較的商業・宅地化がすすんでいない純農村地域である。

つぎに西塩田地域をみると、0.5~1.0層および1.0~2.0層という階層が0.5以下の零細小農層へとずれ落ちるといって上層から下層への「崩落現象」が全体的傾向としてうかがえる。

集落別にみても、十人では、1975年から変化をみせ、75~80年では0.3未満層の増加、80~85年では、1.0以上層が消滅し、0.5~1.0層がその分ふくらんでいる。養豚経営のさかんな東前山では、70~75年に農家数は減少するものの、75~80年は増加、80~85年は急減している。規模別では、零細小農の脱落・離農が80~85年にみられる。西前山では75~85年にかけて2.0以上の微増がみ

られるが、全体では0.3未満の増加、中位層=0.5~2.0層の減少という一般的傾向がここでも確認される。山田も同様の傾向にあるといえる。塩田新町は1980年を境に変化がみられ、80~85年では0.3未満の減少がみられる。山村型の野倉では70年から全体的な退潮ぶりが目につく。⁽⁸⁾ 上層から下層へとずれ落ちていき、零細層が離農していく、という傾向が看取される。西塩田全体では0.5~2.0階層の零細化が85年にかけてより一層すすむという「崩落現象」がつついていると考えられる。つまり、零細小農型へという下方平準化が進行していることになる。

それでは東塩田地域ではどうだろうか。全体の傾向としては西塩田と似た型をしめしているが、2ヘクタール以上の上層への移行がやや強まっている集落がみうけられる。ただし、平井寺、鈴子、石神では2.0以上層がまったく存在しない。とりわけ平井寺は、0.3未満が約43パーセントに達するという下方「崩落化」の激しい地区である。その他の集落では、奈良尾、中組が若干零細化傾向がみられる。そして、1975年から85年にかけては、きわめてゆるやかに中位層が減少をしめしている。ここでも両極分解というよりも下方分化という表現が、適切のように思われる。

いますこし集落別に追ってみると、柳沢では70~80年にかけて0.3未満層が増加し、中位層が減

第5表 農作物別収穫面積の変化

(単位 ha) ()内は%

(1) 中塩田地域

① 下本郷

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,659 (87.1)	4 (0.2)	29 (1.5)	63 (3.3)		150 (7.9)	1,905 (100)
1975		1,637 (90.8)		23 (1.3)	53 (2.9)		90 (5.0)	1,803 (100)
1980		1,312 (75.4)	10 (0.6)	22 (1.3)	248 (14.3)	2 (0.1)	107 (6.1)	1,740 (100)
1985		1,208 (69.1)	273 (15.6)	22 (1.3)	152 (8.7)	2 (0.1)	90 (6.5)	1,747 (100)

② 上本郷

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,786 (80.8)		69 (3.1)	105 (4.8)	1 (0.1)	248 (11.2)	2,209 (100)
1975		2,082 (96.1)		21 (1.0)	28 (1.3)		35 (1.6)	2,166 (100)
1980		1,850 (77.5)	247 (10.3)	32 (1.3)	202 (8.5)		56 (2.4)	2,387 (100)
1985		1,601 (62.3)	367 (14.3)	26 (1.0)	477 (18.6)	2 (0.1)	98 (3.7)	2,571 (100)

③ 五加

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		6,037 (83.9)	12 (0.2)	200 (2.8)	370 (5.1)	21 (0.3)	558 (7.7)	7,198 (100)
1975		5,422 (88.4)		130 (2.1)	167 (2.7)	65 (1.1)	350 (5.7)	6,134 (100)
1980		5,130 (66.5)	385 (5.7)	102 (1.5)	634 (9.4)	163 (2.4)	295 (4.5)	6,709 (100)
1985		4,753 (70.2)	227 (3.3)	113 (1.7)	1,360 (20.1)	89 (1.3)	233 (3.4)	6,775 (100)

④ 中野

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		3,095 (91.0)		45 (1.3)	115 (3.4)		147 (4.3)	3,402 (100)
1975		2,818 (94.7)		21 (0.7)	80 (2.7)		55 (1.9)	2,974 (100)
1980		2,462 (82.0)	32 (1.1)	23 (0.8)	321 (10.7)		165 (5.4)	3,003 (100)
1985		2,420 (70.6)	359 (10.5)	36 (1.1)	432 (12.6)		179 (5.2)	3,426 (100)

⑤ 上小島

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,166 (96.4)		16 (0.7)	10 (0.4)		55 (2.5)	2,247 (100)
1975		2,287 (98.8)		16 (0.7)	8 (0.3)		4 (0.2)	2,315 (100)
1980		1,950 (84.5)	61 (2.6)	3 (0.1)	209 (9.1)		84 (3.7)	2,307 (100)
1985		1,851 (70.6)	469 (17.9)	20 (0.8)	72 (2.7)	25 (1.0)	183 (7.0)	2,620 (100)

⑥ 下小島

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		3,119 (93.6)		29 (0.9)	42 (1.2)		141 (4.3)	3,331 (100)
1975		3,083 (94.0)	1 (0.0)	30 (0.9)	69 (2.1)		97 (3.0)	3,280 (100)
1980		2,669 (77.7)	197 (5.7)	16 (0.5)	299 (8.7)		252 (7.4)	3,432 (100)
1985		2,690 (74.1)	143 (3.9)	46 (1.3)	440 (12.1)	5 (0.1)	307 (8.5)	3,631 (100)

⑦ 保野

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		5,475 (88.1)	6 (0.1)	97 (1.6)	105 (1.7)		532 (8.5)	6,215 (100)
1975		4,855 (91.2)		60 (1.1)	102 (1.9)		305 (5.8)	5,322 (100)
1980		4,467 (84.2)	118 (2.2)	42 (0.8)	370 (7.0)		310 (5.8)	5,307 (100)
1985		4,340 (83.6)	264 (5.1)	69 (1.3)	287 (5.5)		232 (4.5)	5,192 (100)

⑧ 舞田

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		3,137 (86.1)	6 (0.2)	56 (1.5)	103 (2.8)		343 (9.4)	3,645 (100)
1975		2,963 (91.2)		34 (1.1)	79 (2.5)	2 (0.1)	177 (5.1)	3,255 (100)
1980		2,752 (78.7)	113 (3.2)	31 (0.9)	311 (8.9)	5 (0.1)	287 (8.2)	3,499 (100)
1985		2,736 (78.1)	401 (11.4)	30 (0.9)	104 (3.0)	16 (0.5)	218 (6.1)	3,505 (100)

⑨ 八木沢

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		4,462 (91.4)	6 (0.1)	71 (1.5)	126 (2.6)		214 (4.4)	4,879 (100)
1975		4,144 (94.5)		47 (1.1)	56 (1.3)		136 (3.1)	4,383 (100)
1980		3,993 (82.3)	277 (5.7)	18 (0.4)	508 (10.5)		54 (1.1)	4,850 (100)
1985		3,681 (77.8)	553 (11.7)	34 (0.7)	361 (7.5)		100 (2.3)	4,729 (100)

⑩ 中塩田全域

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		30,936 (88.1)	34 (0.1)	612 (1.7)	1,039 (3.0)	22 (0.1)	2,454 (7.0)	35,097 (100)
1975		29,291 (92.6)	1 (0.0)	382 (1.2)	642 (2.1)	67 (0.2)	1,249 (3.9)	31,632 (100)
1980		26,585 (80.0)	1,440 (4.3)	289 (0.9)	3,102 (9.3)	170 (0.5)	1,652 (5.0)	33,238 (100)
1985		25,280 (73.9)	3,050 (8.9)	396 (1.2)	3,685 (10.8)	139 (0.4)	1,640 (4.8)	34,190 (100)

(2) 西塩田地域

① 十人

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,725 (89.9)	3 (0.2)	19 (1.0)	11 (0.6)	50 (2.6)	110 (5.7)	1,918 (100)
1975		1,531 (85.3)		11 (0.6)	28 (1.6)		224 (12.5)	1,794 (100)
1980		1,434 (80.1)		10 (0.6)	226 (12.6)		120 (6.7)	1,790 (100)
1985		1,414 (75.9)	204 (10.9)	7 (0.4)	152 (8.2)		87 (4.6)	1,864 (100)

② 東前山

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,800 (59.4)	14 (0.5)	165 (5.4)	355 (11.7)	235 (7.8)	459 (15.2)	3,028 (100)
1975		1,651 (65.5)		45 (6.8)	160 (6.4)	384 (15.2)	280 (11.1)	2,520 (100)
1980		1,522 (66.9)	7 (0.3)	54 (2.4)	258 (11.3)	90 (3.9)	345 (15.2)	2,276 (100)
1985		1,283 (66.1)	59 (3.0)	29 (1.5)	238 (12.3)	143 (7.4)	190 (9.7)	1,942 (100)

③ 西前山

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,259 (80.9)	7 (0.3)	87 (3.1)	220 (7.9)	86 (3.1)	133 (4.7)	2,792 (100)
1975		2,156 (88.0)		24 (1.0)	126 (5.1)	85 (3.5)	60 (2.4)	2,451 (100)
1980		1,957 (73.8)	47 (1.8)	33 (1.2)	370 (14.0)	111 (4.2)	133 (5.0)	2,651 (100)
1985		1,743 (64.7)	182 (6.8)	49 (1.8)	256 (9.5)	382 (14.2)	81 (3.0)	2,693 (100)

④ 手塚

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		5,408 (77.1)		285 (4.1)	388 (5.5)	61 (0.9)	871 (12.4)	7,013 (100)
1975		5,101 (92.1)		50 (0.9)	140 (2.5)	95 (1.7)	156 (2.8)	5,542 (100)
1980		4,528 (72.7)	45 (0.7)	72 (1.2)	738 (11.9)	283 (4.5)	562 (9.0)	6,228 (100)
1985		4,684 (75.2)	40 (0.6)	104 (1.7)	773 (12.4)	276 (4.4)	355 (5.7)	6,232 (100)

⑤ 塩田新町

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,073 (87.7)		54 (2.3)	66 (2.8)		171 (7.2)	2,364 (100)
1975		1,983 (92.0)		33 (1.5)	77 (3.5)		62 (3.0)	2,155 (100)
1980		1,890 (76.5)	20 (0.8)	39 (1.6)	292 (11.9)		229 (9.2)	2,470 (100)
1985		1,587 (79.6)	106 (5.3)	24 (1.2)	161 (8.1)		116 (5.8)	1,994 (100)

⑥ 山田

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,514 (84.0)	3 (0.1)	93 (3.1)	133 (4.4)	14 (0.5)	236 (7.9)	2,993 (100)
1975		2,489 (90.0)	1 (0.0)	35 (1.3)	76 (2.7)	15 (0.5)	150 (5.5)	2,766 (100)
1980		2,141 (76.7)		50 (1.8)	361 (12.9)	23 (0.8)	217 (7.8)	2,792 (100)
1985		920 (37.2)	1,189 (48.1)	29 (1.2)	162 (6.6)		172 (6.9)	2,472 (100)

⑦ 野倉

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,290 (68.9)		132 (7.1)	310 (16.6)	29 (1.5)	110 (5.9)	1,871 (100)
1975		988 (77.4)		34 (2.7)	145 (11.4)	9 (0.7)	100 (7.8)	1,276 (100)
1980		938 (77.3)		42 (3.5)	74 (6.1)	12 (1.0)	148 (12.1)	1,214 (100)
1985		694 (75.2)		20 (2.2)	129 (14.0)	15 (1.6)	65 (7.0)	923 (100)

⑧ 西塩田全地域

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		17,069 (77.4)	27 (0.1)	835 (3.8)	1,483 (6.7)	425 (1.9)	2,209 (10.1)	22,048 (100)
1975		15,899 (85.8)	1 (0.0)	232 (1.3)	752 (4.1)	588 (3.2)	1,056 (5.6)	18,528 (100)
1980		14,410 (73.7)	119 (0.6)	300 (1.5)	2,319 (11.9)	519 (2.7)	1,877 (9.6)	19,544 (100)
1985		12,325 (68.0)	1,780 (9.8)	262 (1.5)	1,871 (10.3)	816 (4.5)	1,066 (5.9)	18,120 (100)

(3) 東塩田地域

① 平井寺

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		961 (49.5)		133 (6.8)	191 (9.8)	127 (6.5)	530 (27.4)	1,942 (100)
1975		1,001 (67.6)		34 (2.3)	93 (6.3)	78 (5.3)	274 (18.5)	1,480 (100)
1980		995 (65.0)	5 (0.3)	19 (1.2)	85 (5.6)	285 (18.6)	142 (9.3)	1,531 (100)
1985		794 (48.8)	79 (4.9)	27 (1.7)	149 (9.2)	412 (25.3)	165 (10.1)	1,626 (100)

② 鈴子

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,317 (69.0)		39 (2.0)	102 (5.3)	123 (6.4)	329 (17.3)	1,910 (100)
1975		1,450 (77.3)		40 (2.1)	102 (5.4)	85 (4.5)	200 (10.7)	1,877 (100)
1980		1,302 (70.4)		17 (0.9)	209 (11.3)	150 (8.1)	172 (9.3)	1,850 (100)
1985		1,281 (60.5)	50 (2.4)	25 (1.2)	184 (8.7)	286 (13.5)	292 (13.7)	2,118 (100)

③ 石神

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,528 (80.4)		113 (3.6)	177 (5.6)	58 (1.9)	268 (8.5)	3,144 (100)
1975		2,483 (85.7)		54 (1.9)	166 (5.7)	78 (2.7)	117 (4.0)	2,898 (100)
1980		1,970 (71.9)	30 (1.1)	33 (1.2)	257 (9.4)	278 (10.2)	171 (6.2)	2,739 (100)
1985		1,629 (62.4)	253 (9.7)	40 (1.5)	291 (11.1)	309 (11.8)	90 (3.5)	2,612 (100)

④ 柳沢

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		2,706 (86.8)		85 (2.7)	151 (4.8)	40 (1.3)	137 (4.4)	3,119 (100)
1975		2,569 (83.7)		44 (1.4)	33 (1.1)	7 (0.2)	417 (13.6)	3,070 (100)
1980		2,334 (75.5)	300 (9.7)	34 (1.1)	264 (8.5)	42 (1.4)	116 (3.8)	3,090 (100)
1985		1,924 (57.7)	500 (15.0)	26 (0.8)	636 (19.1)	158 (4.7)	89 (2.7)	3,333 (100)

⑤ 下之郷

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		8,904 (87.5)		204 (2.0)	283 (2.8)	4 (0.0)	779 (7.7)	10,174 (100)
1975		8,115 (93.1)		94 (1.1)	117 (1.3)	13 (0.2)	376 (4.3)	8,715 (100)
1980		10,108 (85.0)	29 (0.2)	66 (0.6)	958 (8.1)	89 (0.7)	645 (5.4)	11,895 (100)
1985		9,384 (84.5)	115 (1.0)	54 (0.5)	1,032 (9.3)	97 (0.9)	422 (3.8)	11,104 (100)

⑥ 奈良尾

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		1,494 (32.2)		410 (8.8)	609 (13.1)	964 (20.8)	1,168 (25.1)	4,645 (100)
1975		1,460 (35.7)		193 (4.7)	781 (19.1)	636 (15.6)	1,019 (24.9)	4,089 (100)
1980		1,247 (43.7)	64 (2.2)	70 (2.5)	246 (8.6)	499 (17.5)	729 (25.5)	2,855 (100)
1985		1,320 (45.9)	10 (0.3)	48 (1.7)	152 (5.3)	643 (22.4)	700 (24.4)	2,876 (100)

⑦ 中組

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		3,666 (66.1)	5 (0.1)	280 (5.0)	407 (7.3)	286 (5.2)	905 (16.3)	5,549 (100)
1975		3,429 (67.9)		83 (7.1)	357 (7.1)	552 (10.9)	629 (12.5)	5,050 (100)
1980		3,168 (63.6)	33 (0.7)	105 (2.1)	387 (7.8)	605 (13.7)	685 (13.7)	4,983 (100)
1985		2,814 (63.2)	33 (0.7)	89 (2.0)	303 (6.8)	512 (11.5)	700 (15.8)	4,451 (100)

⑧ 下組

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		4,062 (77.2)	1 (0.0)	195 (3.7)	307 (5.8)	89 (1.7)	607 (11.6)	5,261 (100)
1975		4,067 (87.9)		92 (2.0)	190 (4.1)	72 (1.6)	207 (4.4)	4,628 (100)
1980		3,584 (77.9)	289 (6.3)	48 (1.0)	149 (3.2)	138 (3.0)	394 (8.6)	4,602 (100)
1985		3,349 (73.2)	82 (1.8)	46 (1.0)	582 (12.7)	108 (2.4)	408 (8.9)	4,575 (100)

⑨ 東塩田全地域

年	面積	稲	麦	いも	豆	工芸作物	野菜他	計
1970		25,638 (71.7)	6 (0.0)	1,459 (4.1)	2,227 (6.2)	1,691 (4.7)	4,871 (13.3)	35,892 (100)
1975		24,574 (77.2)		634 (2.0)	1,839 (5.8)	1,521 (4.8)	3,272 (10.2)	31,846 (100)
1980		24,708 (73.5)	750 (2.2)	392 (1.2)	2,555 (7.6)	2,086 (6.2)	3,134 (10.3)	33,625 (100)
1985		22,495 (68.8)	1,122 (3.4)	355 (1.1)	3,329 (10.2)	2,525 (7.7)	2,856 (8.8)	32,682 (100)

少という傾向をみせるが、80～85年では0.5～2.0階層の減少、2.0以上の上層の増加、0.3未満の零細層の減少がみられる。農業專業化が80～85年にかけて増加していることと関係がある。農業に賭ける農家とそうでない農家との分化が近年とくにみられるということか。奈良尾は75～80年にかけて0.3未満層の増加、80～85年では1.0～2.0層の減少が目につくが、全体では比較的安定している。下組は、中位層の減少、零細化の増大という全般的傾向をみせている。

いずれにせよ、塩田地区全体では、農業の相対的な地盤沈下という全国的な傾向がみられるものの、その動きは地域、集落によってはきわめて緩慢である。ただ前述した「下方平準化」現象が着実に拡大していることはたしかであろう。

とくに西・東塩田では若干、耕地規模の零細化はみられるものの、農家率、農家人口率の高さからいって純農村地帯とよぶにふさわしい状態をしめしている。

一方、1975年から80年にかけて、全国的に2兼化傾向が鈍化したことが指摘されたが、⁽⁹⁾1980年から85年にかけて、同様のことがいえるのは中塩田地域だけである。西・東塩田地域では、1970～75年ほどの増加率ではないが2兼化傾向は依然ひきつづいていてと考えてよいだろう。ただし中塩田地域が2兼化の限界に近づいているかどうか

は今後の推移をみていく必要がある。

(4)

つぎに第5表の農作物別収穫面積の変化をみてみることにする。どの農作物の面積が全体でどの程度の割合をしめているか、をみることはその地域の農業の特色を把握するのによい手がかりとなる。同時につくられる農作物の種類によって農村の社会構成も推しはかることができる。また政府主導の農政がどの程度、収穫面積に反映しているかをみることも重要なポイントとなる。たとえば減反政策の対応状況を収穫面積の変化でみることはその一例である。ともあれ、各地域ごとに検討してみよう。

まず中塩田地域では第5表(1)～⑩の数字をみるかぎり、稲作中心であることがわかる。1970～75年がとくに稲作にかたよりがみられる。その後面積は減少し、減反の影響をうけて麦や豆への転作が80～85年にかけてより一層すすんでいる。ここで「野菜他」と記されている項目には、野菜、雑穀、飼料、花き、種苗、その他が含まれている。

集落別では下・上本郷が稲から麦、豆への転作が80～85年にかけて急速にすすんでいる。他の集落においても70～75年の推移に比べ75～80年および80～85年の稲作面積の減少ぶりが目立つ

ようになっている。しかし、稲作面積が70パーセントを依然としてこえていることは、耕地の零細化・高度の2兼化(80~90パーセント)と無関係ではない。稲作における農作業手順の画一化と農用機械、肥料、農業散布等の「合理化」は、農家の農作業負担を大幅に軽減させ、「土地持ち」労働者を存続させることが容易であることをおしえてくれる。手間のかかる果樹、花き、養鶏等がのび悩むか減少しているのは、「土地持ち」労働者には過重負担になるからである。なお、中塩田では桑園はわずかな面積でかつての面影はほとんどない。収穫面積全体では、1975年をボトムに80~85年にかけては増加の傾向にある。

つぎに西塩田地域に目をうつそう。(2)~(8)の全地域を表では、1970~75年にかけて稲面積は減少しているが、いも、豆、野菜他の減少が大きく、相対的には割合を増大させている。しかし、75~85年にかけては相対的にも減少し、かわって転作用の麦と新たに工芸作物が増加している。

集落別にみた特色をみると、なかでも山田が75~85年にかけて稲が急減し、とくに80~85年の減少ぶりが注目される。稲にかわって麦が面積を広げている。それに対し、西前山、手塚、塩田新町は、中塩田地域と似た推移をみせている。すなわち、70~75年に稲が増え、75~85年が減少していることである。ただし一律に麦、豆の増加とはならず、西前山、手塚のように工芸作物に活路を見いだそうというところもある。その点、質的には異なるが、数的変化からいえば、東前山と野倉は全体に大きな変動をみせていない。ただ野倉の場合、80~85年に収穫面積が約24パーセント減少していることは、離農化と関連がある。過疎化状況が今後どう展開するのか、野倉にとって深刻な課題を農業ももっていることになる。

東塩田地域をみってみる。(3)~(9)の全地域を表では、他の地域にみられる変化がここでも確認される。70~75年の稲作の相対的増加、80~85年の大きな稲作の減少がみられる。転作用の麦の増加もみられる。ただしこの地域特有の現象としてあげておかなければならないのは、工芸作物なかんずく朝鮮人参の栽培がさかんである、ということである。75~80年、そして80~85年と着実に朝鮮人参の面積は広がりを見せている。

集落別にみると、工芸作物では奈良尾、中組が以前から多く、80~85年では、石神や柳沢がその面積を拡大している。稲作では、奈良尾がとくにその比重が低く、他の集落が80~85年にかけて相対的比重を減少している傾向のなかでひとりその比重を近年高めているのが注目される。また奈良尾の場合、75~80年の全収穫面積が約30パーセント減少していることが目をひく。他の集落の全収穫面積がほとんど横ばい状態であるだけに、奈良尾の減少ぶりが目立つのである。

他に東塩田地域では「野菜他」の比重も他の地域にくらべれば高い。とりわけ奈良尾の「野菜他」の割合は高い。ついで中組が高い。この内容は、野菜のほか花きが高い割合をしめている。中・西塩田の一部の集落でも換金性の高い農作物として花きが見なおされ栽培されている。朝鮮人参の長期サイクルと違って、短期で多種類栽培が可能で、上田をはじめとする地方都市や首都圏への出荷可能性をもち、今後の需要ののびが期待されているところから、花き栽培が東塩田を中心に展開されそうである。

第5表の中・西・東塩田の各地域をみるかぎり、減反政策が農業に大きな変換をもとめ、それがひとつの大きななげりとなっていることは否めない。零細小農化現象が、今後もひきつづき展開しそうな現況のなかで、比較的負担の軽い稲作が制限されることは、零細小農の存立を、すなわち「土地持ち」労働者の存立さえ危うくさせることになりかねない。そうしたなかで「年金型专业化」現象が生じてきている。農業構造の変容は、いま地方都市周辺で高齢化の問題をはらみながら確実に進行しているといえる。

(未完)

注(1) 同書 P. 1

(2) 『信濃蚕糸業史』下巻 P.19 1937年

(3) 拙稿「明治前期小生産者層の史的位
置」(『本州大学紀要』第2号 1973年、「長野
大学紀要」第5号 1975年)

(4) 安井幸次「上田市塩田地区における地域
生活の住民意識」(『長野大学紀要』第6
巻4号 1985年)の注記参照。

(5) 『小縣郡史』1922年、『上田市史』1940
年、『上田小県誌』1960年。

(6) 全国の農家人口率は16.5パーセント、長野県のそれは約38パーセントをしめしている。農林水産省統計情報部『1985年農業センサス農業事業体調査結果の概要』1985年

(7) 塩田地区の農業に関するこれまでの研究蓄積は わずかながらも着実に積み重ねられてきている。西田美昭編著『昭和恐慌下の農村社会運動』1978年は、西塩田地区に関する戦前および農地改革にいたる社会運動の構造的把握をこころみたまものである。また、中村政則『近代日本地主制史研究』1979年は、小県郡浦里村という塩田地区に隣接した地区を検討している。特筆すべきは、法政大学経済学部五味ゼミナール『農民層分解の現局面—長野県上田市西塩田地区の実例分析をふまえて—』1981年であろう。現在の塩田地区の農業について正面から分析・研究した唯一の文献である。他には、荒木幹雄「養蚕農村の経済構造—長野県小県郡塩田町の場合—」（『経済学論集』10号 龍谷大学 1971年）・同「稚蚕共同飼育経営の分析—長野県下の事例検討を中心に—」（『経済学論集』11号 龍谷大学 1971年）などがある。また最近では、中央大学経済

研究所編『ME技術革新下の下請工業と農村変貌』1985年が、隣村の青木村を中心に検討している。

(8) 前述の『明治の塩田郷村誌』によれば「野倉村」の「地勢」の項につきの記載がある。「四方に山を負い、全地山間に渉り、地形高低一ならず、稍々東南へ低下す。氣候寒烈に属し、降雪早く、解雪遅し。運輸不便、薪に足り炭に乏し。」(P.169)とある。厳しい自然条件を克服して今日にいたっていることがわかる。

(9) 須永芳顕「農家の階層変動」(磯辺俊彦、窪谷順次『1980年世界農林業センサス 日本農業の構造分析』1982年収載)

(記) 資料調査では上田市の協力を得た。また、本研究には、「『塩田地区まちづくり』のための基礎的研究」の共同研究として昭和59、60年度長野大学地域研究助成費を得ている。さらに基礎資料作成には野原ゼミナール生である稲生明彦、江尻昭、曾根久子、田中英一、和田勝義、水野直樹、佐藤直幸、高田佳一、野村勝之等の諸君の協力を得た。